

## 序.

### ①大宮教会が連合執事会当番教会を受けた

大宮教会の牧師、辻幸宏です。昨年、当番教会の依頼を受けましたが、執事に関しては、ほぼ一から作り直している最中であり、到底、依頼を受けることができず、一度、正式にお断りしました。

しかし、断れない状況になり、受けることとしました。そのため、小会・執事たちの協力を得て、今日の日を迎えています。

正直なところ、この一年、非常にしんどかったです。しかし同時に、今日の説教、そして例会時の説教と講演において、語らせて頂けますことを、喜んでおります。

### ②連合執事会目的

さて会則では、連合執事会の目的を次のように定義しています。第3条(目的)本会は、日本キリスト改革派教会政治規準第十章に基づく執事としての責任と義務をわきまえ、相互の交流をはかり、東部中会諸教会の健全な成長と発展に奉仕することを目的とする。

各教会において、執事として働いておられ、問題を抱えながら奉仕を行われているかと思います。「どうすれば良いのだろうか」といった思いもあるかと思います。中会の働き、連合執事会の働きは、まさに、互いの問題を確認し合い、互いに助言し合い、その上で協力することができる、大きな恵みがあるのではないかと思います。

### ③東部中会75周年宣言における「交わり」

また、東部中会では、創立75周年記念宣言を発表しましたが、「まじわり（コイノーニア）」に関して告白しています。

最後の段落は、次のように語ります。

中会へ広がるまじわり（コイノーニア）と長期計画

新しい十年を迎えるにあたり、礼拝の実りである愛し合う信仰共同体としてのまじわり（コイノーニア）を生み出し続けることへと、わたしたちは喜びをもって献身します。また、そのような各個教会の喜びを中会へとさらに広げ、①首都圏伝道の再生と地区伝道協議会の活用や、東日本伝道、ミッション関係における新たな試みにおいて「協力」し、②教師・役員・信徒それぞれが、与えられた立場で、中会における各種教育プログラムを通じた「成長」によって改革派信仰を現し、③「忠実」に主に仕え、福音の力に生きる教会としてたて上げられていくことを決意して、ここに創立75周年記念長期計画を策定します。

「コイノーニア」、また執事活動・愛の業を表す「ディアコニア」、ギリシャ語を用いて、新しいことをしているように思わないで頂きたいと思います。

また、コロナ禍の3年に、交わり、特に中会レベルの交わりが失われたと危機意識

を持っています。今日も、Zoomを併用している関係で、Zoomで参加されている方が、すくなくありません。安易にリモートで良いのか、宣言において語ったことを、具体的に実践するために、何が求められているのか、今日は礼拝説教ですから、与えられた御言葉から、考えて行きたいと思います。

## I. 執事の働き

### ①十戒の要約

さて主イエスは、律法の重要性を、十戒の二つの要約という形で語られています。マタイ22:37～39 『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』

### ②キリストに愛されてキリスト者とされた

最初に考えて頂きたいことは、主なる神に愛されて神の民とされ、それ故に、神を愛しているということです。

そして、愛するということは、犠牲が伴います。主は私たちを愛するために、御子キリストをこの世にお遣わしくされました。御子は律法に仕え、罪人として逮捕され、十字架で苦しみ、肉の死を遂げ、墓に葬られ、陰府（地獄）に下っていただきました。その上で、死・罪・サタンに打ち勝たれ、甦られました。

私たちは、礼拝を通して、霊的にキリストと出会い、人格的な交わりが与えられています。御言葉の説教・主の晩餐の礼典において、交わりが与えられています。

### ③キリスト者

愛され、愛を知った者は、その方を愛する者とされます。だからこそ、私たちは毎週主の日に、主を礼拝します。

そして私たちが主を礼拝する時に求められているのが、御子が犠牲を献げてくださったように、私たちも犠牲を払います。

・礼拝（時間）

・奉仕（賜物）

・献金（財） 献金に関しては、統一協会において問題とされていますので、私たちも注意して語らなければなりません。旧約聖書より、1割を献げることが基本にすることができます。しかし私は、それにとらわれる必要はないかと思っています。未信者の家族への配慮がいます。生活が成り行かなくなるようでは、本末転倒です。そのため私は教会で、生活が少し苦しい位を、献金で献げて頂きたいと語っています。つまり、苦しい部分・足りない部分を自分の力で何とかしようとするのではなく、主なる神に委ね、祈りの生活を行って頂きたいのです。

また、少し苦しい位というのは、奉仕においても同様のことが言えるかと思っています。

## II. 愛すること

### ① 出会うこと

さてようやくルカ福音書の御言葉に聴きますが、追いはぎに襲われ、身動きがとれない人がいました。このとき、祭司とレビ人は、道の向こう側を通り、苦しんでいる彼と会うことを避けてきました。

### ② 知ること

面倒くさいことを避けたわけですが、祭司とレビ人は、彼のことを知ろうとしなかったのです。感心がない、知ろうとしないとき、愛の交流はなく、人格的な交わりは生じません。

教会において求められること、そして特に執事に求められることは、愛の交流を行うため、人格的な交わりを行うことです。直接会い、人格的な交流を行い、その人を知ることです。その人が何を求めているかを知ることです。

### ③ 行動に移す

「阿吽の呼吸」と言われますが、こうした奉仕を行うことが求められています。「これがして欲しかったことです」と言ってもらえることを行うことです。そのために、直接会うこと、その人のことを知ることが、何よりも重要です。

コロナ禍、交わりが非常に希薄になりました。オンライン、メールですまそうとします。「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、私は、「百回のリモートは、一见にしかず」と思っています。リモートは便利です。そのため、仕事・会議、また本当に親しい間柄が形成されている人たちとの交わりにおいては、非常に有用かと思えます。

しかし、ここに人格的な交わりがありません。私は愛の交流を行うことも、非常に困難であると感じています。愛の交わりを行おうとするならば、この面倒くさいことを避けていてはならないのではないのでしょうか。

## III. 奉仕すること

### ① 愛の交流を始める

さてサマリア人は、避けることなく、追いはぎに襲われた彼に会いに行きます。そして彼の状態を知ります。そしてその人を見て憐れに思います。これが愛の交流の始まりです。

### ② 行動する

このとき行動が伴います。先程、神に愛されている私たちは、礼拝（時間）、奉仕（賜物）、財（献金）を用いることを語りました。

サマリア人は、彼に何を行ったのでしょうか。34~35 「近寄って傷に油とぶどう酒を

注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』

まさに、時間・労力・財を惜しまずに献げて、行動しているのではないのでしょうか。

### ③あなたも同じようにしなさい

そして最後に主イエスは「行って、あなたも同じようにしなさい」とお語りくださいました。この問いかけは、今、私に、そして今日、集っている皆さま一人ひとりに主イエスは語りかけてくださっています。

## 結論.

最初に私は、連合執事会での働きにしんどいとお語りしましたが、同時に、喜んでいるとも語りました。

皆さんは、教会における執事としての働きを喜びをもって行われているのでしょうか。今日の総会において、他の教会の執事たちと会えることを楽しみにしておられるのでしょうか？

義務だからしている、執事になったから行わされているのであれば、行わない方がましです。もちろん、日々の生活・仕事に追われ、主の日の礼拝がやっとなのである方々も多いことかと思えます。しんどい、面倒くさいことかも知れませんが、それでもなお喜びをもって楽しんで奉仕することにより、教会は恵みに満たされます。

子どもたち、そして教会に来る人たちは、教会員のこと、そして牧師や執事といった奉仕をする人たちを見えています。肌で感じ取ります。だからこそ、執事の働きは、教会形成、伝道においても、非常に大切なお働きだと、私は思っています。

そのため、私たち自身が、キリストによる救いの喜びに満たされ、楽しんで奉仕することが、今の教会にとって、何よりも大切なことだと思えます。

(お祈り)